

森議員 それでは、通告に従いまして、2点質問します。まず1点目は、災害の備えについて、昨年12月に中国武漢市で発生したと言われている新型コロナウイルスですが、数か月で全世界に蔓延し、日本でも多くの感染者が出ています。マスクや消毒液などの品不足は、手作りや代替品の工夫・各メーカーの製造ラインの増設などで、少しずつ緩和されてきていますが、医療現場では医療用ガウンや手袋などは未だ不足しており、慢性的な人手不足もあいまって、医療従事者の疲弊が大きな問題になっています。そんな中で私たちにできるのは極力自主防疫に努め、まずコロナにかからないようにすることですが、近年多発している豪雨被害や台風被害の起こりやすい季節がもうすぐそこまできています。災害時に一時的に避難する場合、多くの自治体では学校や公民館などが「指定緊急避難場所」に指定されていますが、これらの場所は新型コロナ感染を招きやすい密閉・密集・密接の「3密」に陥る懸念があり、これまでと同じ対応では集団感染を引き起こしかねません。また、避難場所に行かず自宅にとどまる人や、避難場所を避けた結果、車で浸水想定区域など危険な場所に避難してしまう人が出てくることも考えられます。隣の海陽町では、避難所での3密対策のためにテントの追加購入などを行っていますが、コロナ禍における新たな災害時の備えとして、必要な備蓄品の追加や対処方法の策定について、今後どう対応していくか、回答をお願いします。次に令和2年度の国と県が管轄している工事計画についてお聞きします。今年度牟岐町で行われる、または行われている道路などの改良工事、舗装工事、清掃、牟岐川の砂利の撤去、牟岐バイパスなどの工事計画が予定されているかと思いますが、現在着手しているものも含め、今年度の計画内容、予定、進捗などお聞かせください。以上、2点の件のご回答をお願いします。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 森議員のご質問のコロナ下での災害時の備えについてお答えします。夏から秋にかけては、台風の接近で大雨洪水警報等で避難するケースが想定されています。牟岐町では、大雨警報等が発令された場合、一時的な避難の受け入れ場所として、牟岐町役場と牟岐町海の総合文化センターを開設しています。避

難人数が多くなれば、町民体育館など、随時職員を配置し対応していくことになります。新型コロナウイルス感染症が終息していない状況で、避難所を開設する場合には、避難所での3密、「密閉・密集・密接」の回避や衛生対策を徹底するなど、感染症対策に万全を期する必要があります。新型コロナウイルスの影響が続く中では、避難用持ち出し袋の中身を追加する必要もあります。マスクや消毒液の他に共用を避けるため、体温計や石鹸、ティッシュペーパーも追加した方が良いと思われます。また、ペーパータオルは手を拭くだけでなく、輪ゴムと組み合わせてマスクを作ることもできます。さらに感染リスクを避ける方法として、避難所ではなく安全な場所にある親戚、友人宅を頼る縁故避難も考えられます。牟岐町としましては、避難所開設時における新型コロナウイルス感染症対策として、この6月定例会におきまして、密接を防ぐため、パーテーションを100個購入する予算を提案しています。今後とも必要な資機材を計画的に調達していきたいと考えています。また、到着時に避難者の健康状態を確認するとともに、発熱など症状が出た人の専用スペースの確保など、避難所での対処方法も検討していきたいと考えています。令和2年度の国と県の工事計画につきまして、お答えします。令和2年度の当初予算分の国・県の事業内容です。国の事業としまして、国道55号 牟岐バイパスの事業計画は、事業費1億2千万円、事業内容は、調査設計・支障物件移転・大谷地区改良工となっています。用地進捗率が約82%、事業進捗率は約48%の状況です。次に、国道55号 かんば峠視距改良は交通安全事業で、事業費2,400万円、事業内容は、調査設計・用地買収となっています。次に、県事業は、急傾斜地崩壊対策事業は、工事箇所、天神前区域の法面工1式で、事業費2,200万円、町の負担は5%の110万円で、この事業につきましては、着工をしています。負担金のない事業は、緊急地方道路整備事業は、日和佐牟岐線のバイパス関連で事業費500万円、牟岐海南線の工事箇所は河内の冠水対策で事業費1,000万円、路側整備事業は、日和佐牟岐線で工事箇所は灘、落石対策で事業費510万円、総合流域防災事業は、内妻川外で、護岸・樹木伐採・河床掘削で、補正予算分で事業費1億円です。この事業のうち、牟岐川の河床掘削工事は、文化センター前と牟岐川・橘川の合流地点の2箇所6月25日入札となっています。河川特殊改良事業は、内妻川の護岸工で事業費425万円、国、県のそれぞれの事業計画となっています。以上です。よろしく申し上げます。

一山議長 森議員。

森議員 災害の備えの件についてですけど、ある言葉に備えあれば憂いなしという言葉があります。普段から十分な準備をしておけば、いざというときには何も心配がないと、そういうふうな状況で、今後こういった備蓄品とか備蓄食、再度確認をして対応すると。町の備蓄状況ですけど、先ほど、町長の方からも説明があったのですが、今後、マスクとか購入すると、今現在、町の方ではマスクとか軍手、手袋等々、まだ備蓄されていないような数字になっていますけど、再度、もう一度確認をして、必要なものは事前に徹底して準備しておくという面をお願いしたいと思います。そこで備蓄品の中にランタンとか多機能ダイナモラジオ、こういう商品もあるので、こういうものも追加に入れてもらおうと、それと、備蓄食、数年前にわかめご飯と五目ご飯、2食、2種類備蓄されていますけど、食べてみたら、殆どお湯で15分、お水で1時間で、そのご飯が食べられると、単価は約300円になっていると思います。こういった中で、この備蓄食、もう少し違ったものも追加すると、できれば他にもパンとか羊羹とかいろんなものがあるので、いざ起こったときに、そういう面で、本当に良かったと、そういうことを考えてもらって、起こったときの気持ちに立って、食べるものも備蓄品も再度もう一度検討して、追加してほしいと思います。お願いして質問を終わります。